One Point Data

ワンポイント・データ

世界移植者スポーツ大会

世界移植者スポーツ大会は、2年に1度開かれる臓器移植者のための国際スポーツ競技大会です。

この大会では、「臓器の提供を受けて健康を取り戻した人達が、元気にスポーツを楽しむことができ、新しい人生を存分に楽しんでいることを知っていただきたい。ドナー（臓器提供者）やそのご家族に常に感謝し、提供していただいた臓器を大切に、共に生きる喜びを感じながら生きていることを知っていただきたい」という移植者たちの思いを伝えています。

第1回大会は、1978年にイギリスの移植医、モーリス・スラパックの呼びかけにより、イギリス・ポーツマスで開催され、現在では、世界で80を超える国と地域が世界移植者スポーツ大会連盟（WTGF）に加盟し、参加者が1000人を超える大きな大会となりました。日本は、第4回大会から参加しています。

日本では2001年に夏季大会が神戸で開催され、国内の臓器移植普及啓発に大きく貢献しました。

●夏季大会 開催都市

第1回	1978年	ポーツマス（イギリス）
第2回	1979年	ポーツマス（イギリス）
第3回	1980年	ニューヨーク（アメリカ合衆国）
第4回	1982年	アテネ（ギリシャ）
第5回	1984年	アムステルダム（オランダ）
第6回	1987年	インスブルック（オーストリア）
第7回	1989年	シンガポール（シンガポール）
第8回	1991年	ブダペスト（ハンガリー）
第9回	1993年	バンクーバー（カナダ）
第10回	1995年	マンチェスター（イギリス）
第11回	1997年	シドニー（オーストラリア）
第12回	1999年	ブダペスト（ハンガリー）
第13回	2001年	神戸（日本）
第14回	2003年	ナンシー（フランス）
第15回	2005年	ロンドン（カナダ）
第16回	2007年	バンコク（タイ）

第17回 2009年
ゴールドコースト（オーストラリア）
2009年8月22日～30日開催

●冬季大会 開催都市

1994年	ティーニュ（フランス）
1996年	プラ・ルー（フランス）
1999年	ソルトレイクシティ（アメリカ合衆国）
2001年	ナンダ（スイス）
2004年	ボルミオ（イタリア）
2005年	ザコパネ（ポーランド）ニコラスカップ
2008年	ロヴァニエミ（フィンランド）

国内においても、同様の主旨で毎年、全国移植者スポーツ大会が開催されています。

移植者スポーツ大会の問合せ先／NPO日本移植者スポーツ協会 http://www.jtr.ne.jp/japan_s/bosyu.html

携帯やパソコンから臓器提供の意思を登録しましょう！

(社)日本臓器移植ネットワークのホームページで、臓器提供に関する意思を登録できます。
パソコン、携帯電話からの登録が可能で、IDの入った登録カードが発行され、本登録が完了すると、臓器提供の際に本人意思を確認する対象となります。

確実な提供意思の確認のために是非、登録を！

ホームページ
http://www.jotnw.or.jp

モバイルサイト
http://www.jotnw.or.jp/m

臓器提供に関するお問合せ先

〒105-0001　東京都港区虎ノ門1-5-16 晩翠ビル3階

携帯電話からは
☎0120-78-1069　☎03-3502-2071

http://www.jotnw.or.jp にもさまざまな情報が掲載されています。 臓器移植 検索

http://www.jotnw.or.jp/m

JOT NW（社）日本臓器移植ネットワーク

臓器を提供してもよいという人（ドナー）やその家族の意思を生かし、
臓器を提供してもらいたいという人（レシピエント）に最善の方法で
臓器が贈られるように橋渡しをする日本で唯一の組織です。

●医療機関の皆様へ

臓器提供意思表示カード・シールに臓器提供の意思を表示している患者さんのご家族からカード等の提示や「臓器提供についてコーディネーターの話を聞きたい」とのお申し出がありましたら、下記フリーダイヤルにてお知らせください。
また、心臓が停止した死後の腎臓提供は、意思表示カード等がなくてもご家族のお申し出だけでできますので、ご家族にご希望があればお知らせください。
ドナー情報には、24時間対応しております　ドナー情報用フリーダイヤル ☎0120-22-0149

2009.3

臓器移植経験者の手記

think transplant Vol.10

元気なこと、生きる喜びを体で実感することができました。

カー杯投じたボールスロー

ドナー、ドナー家族の方に心から感謝します

私は、2年前に献腎移植を受けることができました。

最初に、ドナー、ドナー家族の方々の崇高なご意思に、心から感謝とお礼を申し上げます。

「本当にありがとうございました。」

私と腎臓病との付き合いが始まったのは9歳のときからです。それまでは外で遊ぶことが好きで、活発な私でしたが、家の中でゴロゴロするようになり、母が心配して近所の病院を受診したのがきっかけでした。

透析に入ったのは28歳の頃からで、その前後数年は、初めて行う透析に対する不安、今後自分はどうなってしまうのか、あと何年生きられるのかと精神的にとても落ち込み、仕事もせず「ひきこもり」の様な状態でした。

移植希望の登録は、透析導入時に行い、「いつか自分も移植手術を受ける日がくるんだろうなあ」と、そのときは他人事のように考えていました。

念願の透析離脱

移植の連絡は3度来ました。

1度目は長男が生まれる前日の平成4年8月で、妻を見舞い自宅に帰ると、父から連絡があったことを知らされましたが、決められた時間内で回答することができない状態で、次の方に権利が移りました。

2度目はそれから7年後で、「3番手で選ばれました」との連絡でしたが、その時は子供も小さく透析も順調でしたので、移植をした場合にこのリズムが壊れてしまうのではないか、移植したことで拒絶が出て入院したり仕事ができなくなりはしないか、免疫抑制剤を飲むことで風邪をひいただけで肺炎などを引き起こすのではないか、と不安の方が多く辞退しました。でも、この夜は、「これで本当に良かったのだろうか」とそのことばかりを考え眠れませんでした。

そして3度目の連絡は、「1番手で選ばれていて、検査をして異常がなければ移植を受けることができます」とのことでした。このときは、透析も20年を超えていて、透析による合併症のことも気になりだしていましたし、何よりこのチャンスを逃したくない、前回のこともあり後悔したくないと強く思いました。また、移植の知らせをいただいた電話でもこちらの質問にハキハキと答えてくれ、とても安心感が伝わってきました。

決意を固め病院へ向かい、CT、レントゲン、心臓エコー等の検査を受け、透析を行ってから移植手術を待ちました。主治医とのインフォームドコンセント後、移植手術後飲み続けなければならない免疫抑制剤を初めて飲み、歩いて手術室へ向かいました。

4時間後ICUに戻ってきたそうです。

待ち望んだオシッコは、すぐには出ませんでしたが、移植手術後3日目から210cc、4日後1190cc、7日後には4100ccと順調に出始めました。

私の中でドナーの方の命が再び脈打ち出しました。

4日後のオシッコが1190cc出た日に、先生から「もう透析に行かなくて大丈夫です」と告げられました。

念願の透析離脱、あきらめていた透析からの解放。

フリスビー競技にも出場

あなたと一緒に精一杯走ります!

「移植を選択してよかった」「移植を決意して本当によかった」と、心から思いました。

同時に、ドナーの方への感謝の気持ちが湧いてきました。言葉では、あらわしようのないほどの感謝の気持ち。

そしてこれからは、あなたと一緒に精一杯生きていこう。

そうすることが、ドナーとそのご家族の方々への恩返しになると信じて。

ドナーとそのご家族の方々が、臓器移植の提供者になったことを後悔しないように、誇りに思えるように、私自身頑張って生きていこうと思っています。

退院後、義母にいただいたバレンタインチョコのおいしさは、透析時代はカリウムが高くて食べられなかっただけに、今でも忘れることができません。その後、透析が長かったため頻尿ではありましたが、2週間で退院し、移植後1ヵ月半くらいから徐々に仕事に復帰しました。

移植の素晴らしさを伝えていく

移植後1年半を経過し、「全国移植者スポーツ大会」や「グリーンリボンランニングフェスティバル」にも出場することができ、元気なこと、生きる喜びを体で実感することができました。スポーツ大会を通じて同じ移植者同士の交流もでき、何よりもドナー、ドナー家族の方々には元気になった私を見てもらいたい、そして移植に不安を抱えて待機している方々には、移植の素晴らしさを伝えられたらと思いました。今までは、腎不全になると血液透析か腹膜透析という選択肢しかありませんでしたが、今後は移植という選択肢もあたりまえのようになされると思いますし、説明もされるべきだと思います。腎不全の治療として移植医療は最善の方法なのではないでしょうか。しかしながら、移植医療は第三者の尊いご意思があって成立する医療であることを忘れてはいけません。

日本でももっと多くの方に移植医療について知っていただき、移植医療について理解を深め、「日本で助かる命を助けられる国」になってもらいたいと思います。そのために、私も「臓器提供意思表示カード」配布、「臓器移植推進パレード」の参加等、自分にもできることは少しでもお役に立っていきたいと思っています。

ドナーに感謝をこめて